

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩 心 会 発 行

元 年 4 月 現 在 会 員 数 逗 子 地 区 1 6 6 名 葉 山 地 区 2 7 5 名 大 船 地 区 4 8 名 (合 計) (4 8 9 名)	元 年 4 月 号 (2 0 1 号) 発 行 者 萃 岳 根 岸 岳 集 者 岳 編 集 者 岳 中 村 愛 岳
---	---

松井岳洋先生
木盃賜杯記念の集いひらかる
平成元年三月十八日、飯田橋のホテル・エドモントに於て、右会が盛会に行われました。
松井岳洋先生には、昨年十一月三日、文化の日の佳き日に、菊紋台付木盃が国から賜与されました。これは永年社会的に、教育、教導事業、又は社会福祉事業に携わって来たもののなかから選ばれた者に贈られるとあり、松井先生には、永年の吟道活動を通して、社会教育並びに、文化の発展に多大のご功績を残されたという意味で賜与されたもので、松井先生はもとより、岳風会の名譽でもあり、これを機に、一層のご活躍を祈念する意味もこめて記念の集いが開催されたものです。
全国各地から理事長竹未岳陽先生はじめ多数の先生方が参加、開会のことばにはじまり、挨拶、祝辞、祝電披露、記念品並びに花束贈呈あり、来賓の笹川鎮江先生も御出席、祝吟をいただきました。
身近に松井先生を相談役としていただく神奈川県本部からも、新田本部長はじめ、根岸副本部長他多数参加し、祝舞、祝賀の詞を、吟・安孫子岳晴、覚張岳環先生、

舞・千葉佳香、中村京愛にて舞い納め、心からお祝い申しあげました。
最後に松井先生から謝辞がのべられ、益々もってお元気なお姿に、大きな拍手が贈られ、つづいての祝宴で、和やかな記念の集いを終わりました。
積みし年吟道のためたゆみなき
功成り迎う今日の佳き日に
守谷崇岳さん作の右の歌を「祝賀の詩」に添えて舞わせていただきました事を附記いたします。 愛岳
◎ 県本部総会
とき・平成元年五月十四日(日)
ところ・神奈川県労働総合センター
◎ 碩心会温習会
とき・平成元年六月十八日(日)
ところ・逗子図書館ホール
奥伝合格 (四月一日付)
おめでとうございます
222 青木昇風
242 伊藤劫風
244 小峯悠風
225 池田敏風
248 若林江風
245 中村国風
251 村井知風
252 佐藤雅風
249 赤池寿風
254 高橋彰風
255 宮本明風
256 宮本香風

会計部からのお願い

会計部長 秋元梁岳

会計部として何かを……といわれますと、今までの御礼と、納金に対する注意事項になりませんが、よろしくお願い致します。会計を担当して以来今日まで、ご協力を戴いた会員、役員各位、担当指導の先生方に感謝し御礼を申し上げます。さて、納金について注意して戴く二、三のお願いを致します。今後共よろしくご協力の程お願い致します。

◎ 県本部費の値上げ案の細部については、本紙一月号に掲載されておりませんが、去る一月二十九日の県本部初理事会で、原案通り可決承認されました。

◎ 新年度（四月一日以降）から値上げされた金額となります。

◎ 規約の一部改正で会費の納期が
 前期分九期末日が五期末日に……
 後期分翌年二期末日が九期末日に……
 それぞれ早められました。

※ 従って当会での集金を多少早めという状況をご了承ください。

＊ 前号で総務部長の申されている「納入額一覧表」は下段に……表以外の細部、注

新入会者の各会費納入額一覧表

入会月	一般会員用			
	碩心会費	県本部費	総本部費	合計金額
4	0	0	0	0
5	0	0	1,000	1,000
6	0	④×200	1,000	1,800
7	③×125	③×200	1,000	1,975
8	②×125	②×200	1,000	1,650
9	①×125	0	1,000	1,125
10	0	⑥×200	1,000	2,200
11	⑤×125	⑤×200	1,000	2,625
12	④×125	④×200	1,000	2,300
1	③×125	③×200	1,000	1,975
2	②×125	②×200	1,000	1,650
3	①×125	①×200	1,000	1,325

（入会同時に総務部に納入する金額）

意事項等については月報63年10月号掲載をご覧ください。

○×…○内の数字は未納月数を示す

※ 高、身、少はそれぞれの会費額により算出して下さい。

会費割出表

月	前期分						後期分					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
県本部費		→	④	③	②	①						
						⇨	⑥	⑤	④	③	②	①
碩心会費			→	③	②	①						
							→	⑤	④	③	②	①

○印……未納月を示す

＊ 総本部費……年①,000円…年少、年①,500円（高、身免除）

＊ 県本部費……月②00円、高身……月①00円・年少月……②0円

＊ 碩心会費……月（全会員）①25円

碩心会会計部

詩吟は心の友達

沼間支部 祐野孝風

沼間教場で、三井先生に詩吟を習い始めてから、早や十四年が経過しました。定年退職して一年三ヶ月余、詩吟を習っていて本当に良かったと感謝しています。

人生を顧みて、子供時代、壮年時代と、激動の昭和を生き抜いて、平成の新たな熟年時代を迎えて、これからは、今迄に得た尊い体験を教訓として、人生の生き甲斐を求め、詩吟を心の友達として、精進して参りたいと思います。何はともあれ、健康でなければ何も出来ません。心身共に健康に留意して、海や山に恵まれた環境の良い湘南の地で、何時までも何時までも、詩吟を心の友達として、声高らかに吟じ続けて行き度いと思えます。よろしく御指導を賜ります様お願い致します。

◎ 教本の購入について

右については、指導者講習会場で松井正風取扱いとなります。又お急ぎの時は、鈴木南風さん（逗子郵便局前、鈴木電気店）にお願いしております。尚冊数の多い場合は前以って電話でお申込下さい。（教務部）

練吟 俳句と漢詩

○まず、例題として朗詠集から俳句二題。

古池や蛙飛こむ水のおと

（大意）不意に、ボトンと蛙の飛びこんだ音。あゝ、古池の周辺のなんとまあ静かなことか。

閑さや岩にしみ入る蟬の声

（大意）岩にしみ入るような騒がしい蟬の声。気がついてみると、周辺の気味悪いほどの静けさ。

俳聖芭蕉の独壇場というか、日本人の心に迫ってやまない境地である。こうした詩の世界は、日本漢詩にも見受けられる。

○ 山禽叫び断えて夜寥寥

無限の春風恨未だ消えず

露臥す延元陵下の月

満身の花影南朝を夢む

河野鉄兜の右の七絶は、芳野をよんだ傑作として藤井竹外・梁川星巖の作と合わせて芳野の三絶と称されている。今回の話題はこの詩の起句の訓みである。右記のものは教本（旧・新とも）どおりであり、その（通釈）は「昼間さかんに鳴いていた山鳥の声も絶えて、夜はひっそりとさびしい」である。そのほか、従来の市販の参考書もお

おむね同様の「山中の怪鳥の声は断えて、夜色さびし」などの解説であった。

○最近、右の訓みは適切さを欠くものがあるとして、次のように変って来ている。

山禽叫断夜寥寥

右の叫断は（叫び断えて）と訓読しないで「叫断」と強く読む。この場合「断」の字は「断える」という意味はなく「叫」の意味を強めるための助字に過ぎない。このような字の扱いは漢語独特の用法で、ほかにも例は多くさんある。したがって、いままでの解釈のように「山鳥の叫びが絶えて」ではなく、まるっきり反対に「山鳥が強く叫んで」ということになる。新しい訓み方による（通釈）は「かん高く山中の鳥の叫びがひびきわたり、しんと夜はふけてゆく」である。結局は、どちらにも訓めるけれども（鳥の声が止んだので夜は静か）では、当りまえで詩にならない。だから、意味合いのうえからも、また吟詠でも少々なじめば「叫断」の方がずっとよくなる。○このような細かいことは吟詠上関係ないと言ってしまうまでも。でも、中央で吟を競い、または範吟するような方は、その辺まで詩意を解釈して吟じた方がよいと思うがどうか。もちろん、岳風会内部では教本どおりであることは言うまでもない。

平成元年4月 碩心会支部別会員数一覧表

逗子地区		葉山地区		大船地区	
逗子A	60	堀内A	88	大船A	10
逗子B	11	堀一色B	42	大船B	11
桜山A	11	一色B	12	塚和	7
桜山B	17	星上	7	大戸松	20
沼山	5	木原山	21		
銀真	17	山口	7		
葉若	21	唐下	15		
	14	吟長	12		
	10	諏上	13		
		滝風	15		
		平早	6		
			13		
			9		
			15		
9支部	166	14支部	275	4支部	48名
合計		(27支部)		(489名)	

皆伝会発足

啓蟄を迎えた三月五日、堀内会館に於て皆伝会発足の会が催された。あいにく小雨模様寒い日であったが、83名中66名出席盛会となった。開会の辞に始まり、碩心会の詩合吟、会長挨拶と続き、根岸会長より「碩心会に十五年以上在籍の皆伝以上の皆様に、色々とお手伝いをしていただき、発展してきました。今後も色々意見を出しあい、親睦を深め、尚一層の努力をしていただきたい」との言葉をいただいた。次に皆伝会代表幹事、新皆伝者の紹介があり、大きな拍手がおくられた。乾杯の後、懇親会に移

り、楽しいひとときを過し、散会となった。
岩崎記

全国大会合吟コンクール出場

堀内支部(F)の皆さん御苦労様

三月十八日、明治神宮会館大ホールに於て行われた全国大会に、全国から21組(十八組)が覇を競い、甲乙つけがたく、わが碩心会から初出場ながら、入賞外とはいえ、立派に果されました。御苦労様でした。

(支部解散)

桜山B支部は3月31日付で解散となり、一部会員移籍しました。

(支部長交替)

逗子B支部長田辺伯風に代り立澤御風に

(移籍)

69 近藤尚風 桜山B支部より葉月支部へ
474 原田義男 桜山B支部より沼間支部へ

(入会)

527 真中万紀子 葉山町堀内五三三

(堀内・E) (電)〇四六八一七五―三五四五

528 井上孝子 横須賀市岩戸五―八一―二〇

(逗子A) (電)〇四六八一四八―一四三三

529 岸本満里子 葉山町一色一八一―

(一色A) (電)〇四六八一七五―一六二

530 角田梅風(再) 葉山町一色二二〇三

(一色A) (電)〇四六八一七五―〇七七五

531 松下セツ 逗子市山ノ根一―二―二

(若葉) (電)〇四六八一七五―一九六四〇

532 門戸チヨ 逗子市沼間四―五―一二

(沼間) (電)〇四六八一七五―一七六一三

(退会)

117 中村朗風(銀 詠) 156 増子圭風(大船B)

246 加藤詠山(堀内・D) 250 村井清山(大船A)

279 野元正山(堀内・D) 289 赤羽高山(桜山B)

295 森岡泰山(桜山B) 319 田中千山(桜山B)

324 市瀬江山(大船A) 325 池田和山(堀内・D)

476 手塚寿泉(若葉) 400 青野壽泉(桜山B)

514 八尾明子(一色B) 487 三村栄子(若葉)

520 石原マミ子(逗子A) 519 根岸敏子(堀内・F)

根岸寿似(堀内・F)

徳本華泉

吟終えて急ぐ家路に春の雨

降り止みて霽ふくめるアンス花

板橋雅風

花の雨壺にうつして一日すぎ

著我の花活けて谷風さそいけり

石渡桂岳

夜桜の坂道をゆく吟友と

花吹雪あびて真白き慰霊塔